

島根県公共事業再評価 対応方針（案）

作成日 令和元年6月

番号	事業概要・事業主体等	事業の進捗状況	事業採択時の状況及び社会情勢の変化等	事業効果	環境への配慮 事業を中止した場合の影響	今後の県の方針案
	(事業概要) (事業主体の根拠)	(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) (進捗状況と今後の見込み)	(事業導入の経緯・目的) (事業を取り巻く社会情勢) (事業に対する地元情勢・計画の熟度)	(費用対効果) (コスト削減・代替案等) (その他の効果)	(生活環境・自然環境への影響) (事業を中止した場合の影響)	(継続・中止)
5	(事業名・地区) (一) 匹見左鑑線 防災安全交付金（改築）事業 左鑑Ⅱ工区 鹿足郡津和野町左鑑地内 (事業費) 454,000千円 (事業概要) 本事業は鹿足郡津和野町左鑑地内の0.61km区間を現道拡幅による1.5車線の改良により整備するものである。 (事業主体の根拠) 道路法第15条 (再評価区分) ②事業採択後10年を経過している継続中の事業 (担当部課名) 土木部道路建設課	(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) 事業採択年度：H22年度 用地着手年度：H23年度 工事着手年度：H23年度 完了予定年度：R6年度 経過年数：10年 (進捗状況と今後の見込) 全体で53%の進捗。 ※事業費ベース 用地補償は完了。 工事の進捗状況は、全体延長0.61kmのうち0.17kmを供用済み（供用率28%）。 また、平成31年度には0.22kmを供用開始予定（供用率64%）。 当該工区は、アユやヤマメの漁期、冬期積雪時の施工が出来ず、施工時期が限られる中、現在は工区中間付近の道路改良工事を施工しており、今後は工区起点側の盛土工、擁壁工を施工し令和6年度全線完成の予定である。	(事業導入の経緯・目的) 本路線は、益田市匹見町紙祖を起点とし鹿足郡津和野町左鑑において一般国道187号へ至る路線である。 当該路線は上横道地区から国道187号線へ通ずる唯一の道路であり、通勤や介護福祉車両、町営バスなどが定期的に通うなど、地域住民にとってきわめて重要な生活道路である。 しかし、本区間は現道幅員が狭隘で線形も悪く、落石危険箇所もあるため、本事業により自動車交通の円滑な走行及び安全性の向上を図るものである。 (事業を取り巻く社会情勢) 当該路線は迂回路がなく、地域住民にとってきわめて重要な生活道路であるほか、県内最高峰の安蔵寺山への登山ルートの一つとなっており、観光客も通行する路線である。 また、当該区間には落石危険箇所があり、落石が危惧されるほか、周辺の迂回路も幅員が極めて狭く、線形も悪いため、本路線が通行止めになると集落が完全に孤立する恐れがあることから、早期完成が期待されている。 (事業に対する地元情勢・計画の熟度) 用地買収は完了しており、地元も協力的なため、事業の早期完成が望まれている。	(費用対効果) B/C=算定せず ※1.5車線の改良は、便益の評価手法が確立されていないため算定不可 (コスト削減・代替案等) ①事業規模の妥当性 沿線の地形や道路利用状況を考慮し、1.5車線の改良とした。 ②事業方法の妥当性 地形等を考慮し、経済的な整備計画とした。 ③コスト削減への取組 他工事の残土を流用することにより、工事費を軽減。 (その他の効果) 当工区の整備により、安蔵寺山登山道へのアクセスの利便性及び安全性が向上が図られる。	(生活環境・自然環境への影響) 道路拡幅に伴い必要となる河川護岸は、アユやヤマメの漁が行われている横道川への影響を考慮し、環境保全型ブロックを採用している。 (事業を中止した場合の影響) 道路幅員が狭く線形が悪い状況が解消されず、普通自動車同士の離合もままならない状態が続き、災害時においても、通行止め等の可能性が残り、安全で円滑な交通の確保ができない。 用地買収は完了しており、中止した場合用地提供者など地元住民の理解が得られない。	(方針案) 継続 (継続の理由) 本事業により、狭隘で線形が悪い区間が解消され、上横道地区から日原までの安全で円滑な交通が確保できる。 また、このことにより集落の維持や活性化に貢献するものである。

道路改良事業（現道拡幅・線形改良）

（一）匹見左鏡線（左鏡 II 工区）

【路線の概要】

本路線は、益田市匹見町紙祖を起点とし鹿足郡津和野町左鏡において一般国道187号へ至る路線である。左鏡町横道地区から中心市街（日原等）へはこの路線が唯一となっており、通勤や介護福祉車両、町営バスが定期的に通うなど、地域住民の生活を支える重要な路線である。また、県内最高峰の安蔵寺山への登山ルートの一つとなっており、観光客も通行する路線である。

また、当該区間には落石危険箇所があり、落石が危惧されるほか、周辺の迂回路も幅員が極めて狭く、線形も悪いため、本路線が通行止めになると上横道地区がの集落が完全に孤立する恐れがある。

【事業の概要】

幅員が狭い箇所の拡幅や線形が悪い箇所の改良、落石危険箇所の除去などにより、円滑で安全な通行の確保を図る。

事業手法については、急峻な地形を有しており、交通量も比較的少ないことから、1.5車線の改良を採用。

